

病害虫発生予察特殊報
第1号

昭和56年7月10日
東京都農業試験場

病害虫名: イネドロオイムシ

発生地域: 八王子市上川口

発生状況

本虫はしばしば冷害を被りやすい北海道、東北地帯や山地に発生するが、都下における発生ははじめてである。現在、八王子市川口の谷戸田水田約20aに被害が確認されているが、その他の山間部の水田でも発生している可能性があり、充分注意されたい。

加害は苗代から本田中期にかけて葉先をたてに葉肉を食うため、白い食いあとが目立つようになる。多発すると、田全体が真白になり、著しい減収を引き起す。

虫の特徴

成虫は体長4～5mmの甲虫で頭は青らん色、脳と脚は黄褐色で美しい。幼虫は背に自分の糞を背負っており、それがドロのように見えるので「泥負虫」の名がある。日1回の発生で幼虫は6～7月上旬、成虫は7～8月はじめに出てくる。

対策

発生をみたら次の薬剤のいずれかを散布する。

スミチオン粉剤		
バイジット粉剤		10a当たり 3～4kg
ダイアジノン粉剤		
エルサン乳剤		1000倍液
カルホス乳剤		
ダイアジノン粒剤		10a当たり 3～4kg
デナポン微粒剤下		